

静岡鉄道株式会社（静岡県静岡市）

主な評価ポイント

- 中小私鉄の中でも積極的に省エネに取り組み、全ての編成に高効率な省エネ型車両を導入。
- 中部地方で初めて、地域で発電した再エネ電気を使用した運行を実現し、地域循環経済に貢献。さらに、全国に先駆けて、地域における脱炭素や防災レジリエンスの向上を目指し、地域で発電した再エネ電気を鉄道架線を活用して送電、沿線施設へ配電する、「清水静岡レイルグリッド構想」を推進。

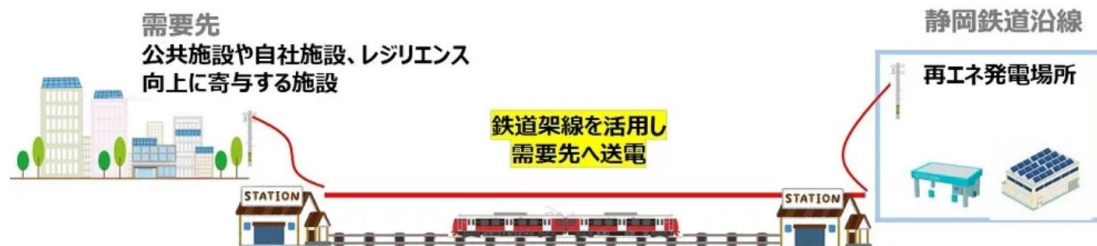
全ての編成へ省エネ型車両導入、地域で発電した再エネ電気で運行

- 2015年度から順次導入した新型車両「A3000形」を全12編成へ導入し、旧型車両と比較し50%以上の消費電力を削減。
- 静岡県内の大井川・天竜川・富士川・安倍川の各水系にある水力発電所の再エネ由来の環境価値を活用した静岡県産のCO₂排出量ゼロ電気「静岡Greenでんき」を使用。地域で発電した再エネ電気使用による運行を実現し、地域循環経済へ貢献。
※ 中部地方の鉄道会社で初



「清水静岡レイルグリッド構想」推進

- 地域の再エネ導入の拡大や、沿線の防災レジリエンス等の価値の向上を目指した「清水静岡レイルグリッド構想」を推進。
(鉄道沿線で発電された再生可能エネルギーを、自社が所有する鉄道架線を活用して送電し、沿線施設へ配電)
← 鉄道施設を活用したマイクログリッドの構築は、全国的にも例がない取組。



四国名鉄運輸株式会社（愛媛県松山市）

主な評価ポイント

- 四国地方で初めて、事業用EVトラックを導入。
- 関係各社と協議会を設立し、鉄道や船舶へのモーダルシフトを積極的に推進。
- これらに加え、エコドライブ宣言、全事業所でのグリーン経営認証の取得、環境教育の実施等、長期に渡り事業活動における環境負荷低減の多様な取組を推進。

四国地方で初めて、事業用EVトラックを導入

- 2021年7月、松山支店に小型EVトラック2台を導入。（四国管内で初）
- ※ 松山市内での一般貨物の輸送（約60km/日）に活用



四国管内初 電気トラック

長期に渡る環境負荷低減の多様な取組

- 2004年にグリーン経営認証を取得して以降、長期に渡り、エコドライブ宣言、全事業所でのグリーン経営認証の取得、環境教育の実施等、環境負荷低減の多様な取組を推進。



『エコ・ドライブ宣言』

～Eco Driving Action～
一人ひとりにできること、エコ・ドライブ
四国名鉄運輸株式会社は、環境負荷の低減に努めたエコドライブを推進し、環境負荷低減の取組に積極的に取り組めます

- 1 経済的な速度で走行する
- 2 無用なアイドリングをしない
- 3 急発進・急加速をしない
- 4 シフトアップを早めに行う
- 5 グリーンブレーキ（エンジンブレーキ）を積極的に使用する
- 6 エンジンブレーキを積極的に使用する
- 7 タイヤの空気圧をこまめに点検する
- 8 不要なものを積まない
- 9 無駄な走行をしない

【燃費低減の推進】
○ エコドライブを推進する
○ エコドライブを推進する
○ フラットは燃費を向上させる

鉄道や船舶へのモーダルシフト推進

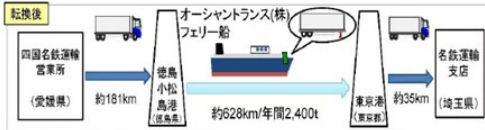
- 従来陸上輸送により配送していた貨物を、船舶及び鉄道を利用する輸送に転換するモーダルシフトを推進。
- ※ 四国管内における総合効率化計画のモーダルシフト分野の認定件数22件中、四国名鉄運輸(株)が関係する計画は4件(運送事業者として最多)
- 往復の貨物量の安定化が課題であったところ、荷主・鉄道・海運事業者と協議会を設立し、新たな幹線輸送網を実現。

【物流総合効率化法に基づく総合効率化計画の認定事業】

① RORO船を活用したモーダルシフト



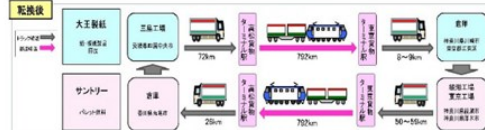
③ フェリー船による海上モーダルシフト



② 鉄道を活用したモーダルシフト



④ 異業種荷主間で積荷を調整、鉄道輸送(ラウンド輸送)に転換



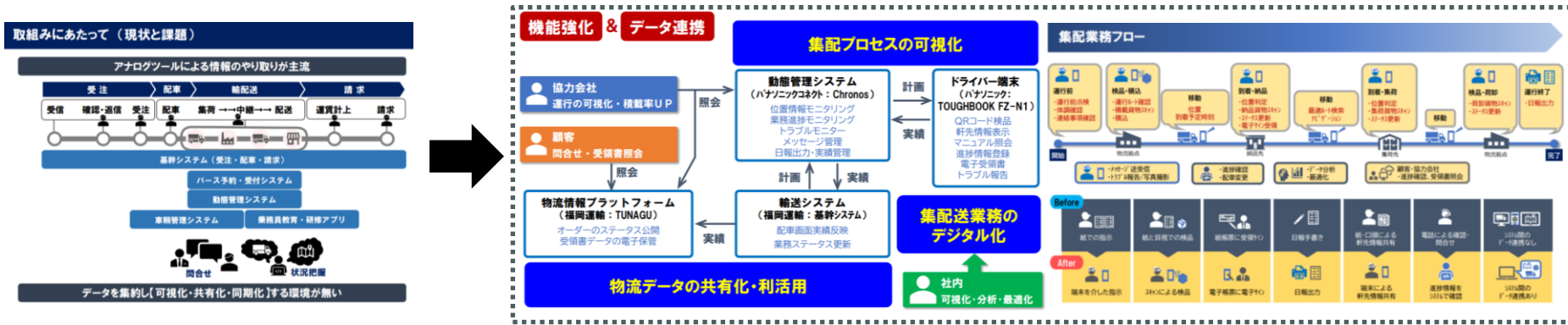
福岡運輸株式会社（福岡県福岡市）

主な評価ポイント

- 「バス予約・受付システム」を開発したことに加え、輸送システム・物流情報プラットフォーム等の様々なシステムと連携させることにより、物流データの共有化や集配プロセスの可視化を実現。これにより、積載効率向上、ドライバーの待機時間の減少につながるなど、DXを最大限活用して、物流プロセスを最適化。
- 西日本では初めて、FCTトラックの商用利用を開始するなど、水素社会実現に貢献。

DXを最大限活用した物流プロセス全体の最適化

- 社内でDX戦略を策定し、「バス予約・受付システム」開発のみならず、デジタル技術を活用して各システム（ドライバー端末、動態管理システム、輸送システム、物流情報プラットフォーム等）を連携させ、ドライバー、貨物、車両等の物流データを共有・集配プロセスを可視化。このようにDXを最大限活用して、積載効率向上、ドライバーの待機時間の減少等、物流プロセス全体を最適化。



西日本初 FCトラック商用利用開始

- 令和5年7月4日から水素燃料電池（FC）を搭載したトラックの商用利用を開始。このFCTトラックは、西日本では初めて導入され、主に福岡都市圏を中心に食料品配送。
- ※ FCTトラックは、トヨタ自動車といすゞ自動車が共同開発し、積載量約3トン。約10分の水素充填で走行距離は、260キロメートル。

